令和6年度 第2回水環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会

(令和6年11月26日開催)

環境省水・大気環境局

令和6年度 第2回水環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会
会 議 録

1. 日 時 令和6年11月26日（火）10：00～10：43

2. 場 所 環境省会議室及びWeb開催（YouTube配信）

3. 出 席 者

（座 長） 福島 武彦

（委 員） 飯本 武志 石井 伸昌 林 誠二

（環境省） 水谷海洋環境課課長

谷口企画官

武藤海洋環境課課長補佐

田邊海洋環境課課長補佐

石川海洋環境課係長

有川海洋環境課係員

4. 議 題

1. 令和5年度全国の放射性物質モニタリングの調査結果の確定について
2. 令和5年度福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリングの調査結果の確定について
3. 福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリングの中間とりまとめについて
4. その他

5. 配付資料

資料1 令和5年度水環境における放射性物質のモニタリング結果（案）
（第1部 全国の放射性物質モニタリング）

資料2 令和5年度全国の放射性物質モニタリングの調査結果概要

資料3 令和5年度全国で実施する放射性物質のモニタリング調査結果（確定値案）

- 資料4 令和5年度水環境における放射性物質のモニタリング結果（案）
（第2部 福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリング）
- 資料5 令和5年度福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリングの調査結果概要
- 資料6 令和5年度福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリング調査結果（確定値案）
- 資料7 福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリングの中間とりまとめについて
- 参考資料1 水環境における放射性物質のモニタリング実施方針（案）（修正履歴版）
（第1回検討会資料2-2）

6. 議 事

【事務局（草柳）】 おはようございます。定刻となりましたので、ただいまより令和6年度第2回水環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、朝早くから会議にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。本日は対面形式での会議とさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本検討会は、YouTubeでのライブ配信による公開で行っております。配信のため、発言の際はマイクのご使用をお願いいたします。

続いて、本日の委員の皆様の参加状況ですけれども、徳永委員がご都合により欠席となっております。

続きまして、会議資料についてご説明いたします。本日の会議資料は、議事次第のほかに資料が1から7、参考資料が1となります。資料の不足はございませんでしょうか。資料のほうは、画面、モニターのほうにも投影をさせていただきます。

それでは議事に先立ちまして、環境省企画官よりご挨拶をお願いいたします。

【水谷課長】 皆様おはようございます。環境省海洋環境課長の水谷と申します。

評価検討会の委員の皆様におかれましては、ご多忙の中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。令和6年度でございますが、9月に第1回の検討会を書面にて開催をさせていただいております。水環境における放射性物質のモニタリング実施方針案につきまして、周辺環境、土壌の放射性物質及び空間放射線率に関する技術的な改正をさせていただいております。

本日の第2回の検討会でございますが、主に2点ご議論をお願いしたいと思っております。

ます。一つは、令和5年度の全国の放射性物質モニタリングの調査結果の確定でございます。もう一つは、令和5年度の福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリングの調査結果の確定でございます。既に速報値を公表してございますけれども、その後検証を加えてございますので、ご確認をお願いできればと思っております。

さらに、福島県及び周辺地域の放射線物質のモニタリングにつきましては、これまで13年にわたってモニタリング、実施してきたところでございます。一度取りまとめをさせていただきたいと考えておまして、本日はその取りまとめの進め方についてご説明をさせていただきたいと考えております。よろしくお願いたします。

【事務局（草柳）】 ありがとうございます。

それでは議事に移らせていただきます。これよりの議事進行につきましては、福島座長をお願いしたいと思います。福島座長、よろしくお願いたします。

【福島座長】 はい、かしこまりました。皆さんおはようございます。

それでは、熱心なご議論を本日もどうぞよろしくお願いたします。

早速議事に入りたいと思います。議題の1、令和5年度全国の放射性物質モニタリングの調査結果の確定についてということで、事務局のほうから説明をお願いいたします。

【事務局（草柳）】 それでは、議題の1番、令和5年度の全国モニタリングの調査結果の確定についてということで進めさせていただきます。

資料が1から3までを使用させていただきます。順番前後しますが、資料3が全国で実施する放射性物質のモニタリングの令和5年度の調査結果の一覧となっております、こちらは昨年、評価委員の専門的な評価を得まして、速報として公表されているものですが、本日の検討会におきまして、最終的に確定をさせていただきたいと存じます。

それから、資料1が、その確定値を用いまして取りまとめた令和5年度の水環境における放射性物質のモニタリング結果の案ということで、こちら第1部の全国の放射性物質モニタリングの結果を取りまとめたものとなっております。こちらにつきましても、本日の検討会におきまして、承認をいただければと考えております。

資料2が、取りまとめの結果の概要を整理したものになっておりますので、本日はこちらを使いまして調査結果等の説明をさせていただきます。

1ページ目がモニタリングの概要になっておまして、モニタリングの基本的な考えとしましては、一般環境中の放射性物質の存在状況を把握しまして、必要に応じて詳細分析を実施するというものになっておまして、測定結果は速報値として随時公表し、こちら

の検討会の方で評価をいただいて、取りまとめた最終的な確定値を毎年公表するといった内容になっております。

それから、モニタリングの実施地点・調査対象、頻度ですけれども、公共用水域が水質と底質を対象にしまして合計110地点、地下水につきましては水質を対象とした110地点で調査を実施しておりまして、公共用水域の年間変動を確認する地点を除き、年1回の頻度で調査を行っております。

それから、対象項目ですけれども、全 β 放射能濃度測定及び γ 線スペクトロメトリー測定を行っておりまして、 γ 線核種は自然核種が18核種、人工核種が44核種となっております。

速報値につきましては、ブロックごとにまとめ次第、ホームページで公表しております。令和5年度の測定値につきましては、詳細分析を必要とする速報値はございませんでした。

2ページ目以降が測定結果の概要となっております。

2ページは公共用水域の水質の測定結果を図に示したものとなっております。全 β 放射能のほかに、 γ 線核種が6核種確認をされておりまして、自然核種が5核種、人工核種が1核種検出されております。

核種の左側の点のところは令和5年度の測定結果、大きい丸が平均値、右側が過去の測定値の範囲となっております。人工核種のCs-137につきましては、No.15の地点で過去の測定値の傾向を僅かに超える値が確認されておりますが、専門的評価を得まして、過去の測定値の傾向の範囲内であることが確認されております。その他につきましても過去の測定値の傾向の範囲内となっております。

3ページが公共用水域の底質の測定結果となっております。全 β のほかに γ 線核種が、自然核種7核種、人工核種2核種が検出されておりますが、全て過去の測定値の傾向の範囲内となっております。

4ページ目が地下水の測定結果になります。全 β のほかに、 γ 線放射核種が4核種、いずれも自然核種ですけれども検出されておりまして、人工核種の検出はございませんでした。検出された核種等につきましては、全て過去の測定値の傾向の範囲内となっております。

5ページ目、6ページ目が、公共用水域の年間変動地点の測定結果を示したものとなっております。西日本と東日本で1地点ずつ、年4回の測定を継続して行っているものです。

5 ページ目のグラフにつきましては水質の測定結果になっておりまして、このうちの放射性セシウムは東日本のみの検出となっております。平成26年度からの測定結果の推移ですけれども、変動係数等の傾向は、これまでと同様の傾向を示しております。

6 ページが底質の結果になっておりますけれども、人工核種につきましてはやはり東日本の地点での検出のみとなっております。変動につきましては、過去と同様の傾向を示しております。

以降は参考の資料ということで、対象の項目ですとか、専門的評価の流れ、過去の測定値の傾向との比較等をまとめたものになっております。

資料の説明は以上となります。

【福島座長】 ありがとうございます。それでは、令和5年度全国の放射性モニタリングの調査結果の確定について、ただいまの説明に対しまして、ご質問、ご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。まずは資料3のほうの調査結果一覧を確定させていかどうか。続きまして、それをまとめた資料の1ですか。その結果をまとめたようなものをこのような形で外に出していかどうかということかと思っております。

よろしいでしょうか。徳永委員も特にご意見はなかったですか。

【田邊課長補佐】 本日ご欠席の徳永委員ですが、こちらの議題1の全国モニタリングに関するご意見は特にございませんでした。

【福島座長】 それでは、特にご意見なしということで、このままの形で本検討会としては了承したいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

【福島座長】 どうもありがとうございます。

それでは、次の議題2、令和5年度福島県及び周辺地区の放射性物質モニタリングの調査結果の確定についてということで、まずは事務局のほうから説明をお願いいたします。

【田邊課長補佐】 スライドの表示をお願いいたします。

それでは、環境省から資料5を用いてご説明させていただきます。震災対応として行っております令和5年度福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリングの調査結果概要となります。資料につきましては、先ほどの全国モニタリングと同じ資料構成となっております。資料6がデータのものになっていて、それを取りまとめているものが資料4となっております。

それではご説明をさせていただきます。

総合モニタリング計画に基づいて行うモニタリングとなっております、公共用水域で600地点、そして地下水で400地点に実施しております。令和4年度に引き続き、同様の規模で実施しております、対象はCs-134、そしてCs-137となっております。

次のスライドは検出下限値をお示ししているものになります。放射性セシウムは水質で1 Bq/L程度、公共用水域の底質で10 Bq/kg程度となっております。放射性ストロンチウムですが、水質では1 Bq/L程度で、地下水では放射性ストロンチウムの90と89両方ともに計測してございます。ここまでが方法となっております、次が結果となっております。

水質のスライド3になります。水質の結果となります。河川の水質の結果となりますが、令和5年度も引き続き全地点で検出下限値未満の状況となっております。

次が、水質の湖沼、沿岸、地下水の部分ですが、湖沼については、令和5年度の検出では2地点で10試料の検出がございました。福島県浜通りでの検出がございました。令和5年度の測定値の範囲は、最大で3.8 Bq/Lとなっております。

沿岸ですが、これまで過年度も含めて全ての地点において放射性セシウム検出はございません。

地下水ですが、平成24年度以降は全ての地点で検出されておらず、令和5年度も引き続き検出下限値未満の状況となっております。

次は底質の結果に移ります。河川の底質の結果をお願いいたします。

すみません、ウェブ上のトラブルがありますので、紙資料のほうで引き続きご説明を続けさせていただきます。

スライドは資料の5ページになります。河川の底質の結果となっております。令和5年度については、検出下限値未満が22.8%になっておらず、10から100 Bq/kg未満が58.2%となっております。100から1,000 Bq/kgが18.3%になっておらず、全体としまして1,000 Bq/kg未満の試料が全体の99.4%を占めているといった状況となっております。こちらはどの県でもご確認いただけますように、経年的に多くの都県で減少傾向が確認できるようになっているところです。

配信が途切れてしまいまして、失礼いたしました。引き続きご説明を続けさせていただきます。

次が底質の湖沼のほうのご説明になります。スライドは6になります。

令和5年度につきまして、検出下限値未満の資料が1.6%、そして10から100 Bq/kg未満の間の試料が24%を占めておらず、100から1,000 Bq/kg未満の資料が48.2%、概ね

50%となっております。そして、1,000 Bq/kg未満の資料が全体の73.7%、4分の3程度となっております。令和5年度も10万Bq/kg以上の値が出るという非常に高い地点も出てきてはございます。地域によって低濃度の区分が一番薄いブルーとブルーの部分です。増加が認められるものの、その傾向は河川と比べては緩やかで、高濃度の区分が依然存在はしているといった状況となっております。

次がスライドの7になります。

底質の沿岸域のご説明に移ります。令和5年度の資料につきましては、検出下限値未満が約20%、そして10から100 Bq/kg未満の試料が56.9%となっております。100から1,000 Bq/kg未満の試料が23.2%になっておりまして、100 Bq/kg未満の試料については76%を占めておりました。大体4分の3程度となっております。そして河川や湖沼に比べて全体的に当初から濃度が低い状況になっておりまして、平成28年度以降は1,000 Bq/kgを超える試料の検出は出てはおりません。

次、資料の8ページに移ります。

次が、地点別の濃度分布の内容となっております。これまで試料別の内容、試料数別のご説明でしたが、地点ごとの平均の濃度を求めまして、その平均の濃度区分を対数区分別に表示したものを示しております。河川につきましては全体約400地点ほどであります。108地点で27.3%が検出下限値未満となっております。そして10から100 Bq/kg未満が214地点ございまして、概ね半分程度がこの区分にございます。100から1,000 Bq/kg未満の間が72地点ございます。全体としまして100 Bq/kg未満の地点が全体の81%を占めている状況となっております。

次が湖沼のご説明になります。湖沼については、この区分が減少はしておりますが、検出下限値未満は3地点と僅かに1.8%となっております。10から100 Bq/kg未満が40地点ありまして24.5%。そして100から1,000 Bq/kg未満が83地点、約半分程度を占めているところとなります。1,000 Bq/kg未満の地点が全体の77%というふうになってございます。

次が沿岸のご説明になります。沿岸は、検出下限値未満が12地点、全体で約30%程度になります。10から100 Bq/kg未満の区分が21地点、半分程度を占めているという状況になります。そして100から1,000 Bq/kg未満の地点が8地点、19.5%になっていまして、100 Bq/kg未満の地点が全体の約80%を占めているという状況となります。

次が、スライド9になります。こちらは増減傾向をお示ししているものになります。回帰分析を行いまして、増減傾向をお示ししてこちらの表に落とし込んでいるものになります。

す。ざっとご確認いただくと、ほとんどの部分が100 Bq/kg以下のところは、この中に100 Bq/kg未満という形でもっておさめてはいるのですが、ほとんどのものが減少傾向を示しているということがこちらのほうで、河川、湖沼、沿岸ともに大変高い割合でお示しできていると思います。横ばいやばらつきというところで、毎回地点、採取ごとに濃度が結構ばらつくというところですが、ほとんど平行線を取るというところも僅かながら認められるところとなります。増加傾向があるところは湖沼で7.4%、12地点で確認されているといったところとなっております。

増加傾向が認められた12地点につきまして、追加の解析を実施しております。こちら昨年度も追加の解析を実施しております、引き続き同様に解析を行ってございます。12地点のうち7地点においては、地点平均が100から1,000 Bq/kg未満の濃度区分にありまして、相対的に低い濃度区分内で変動が起きているというふうなこととなっております。

そして、12地点のうち4地点におきまして、地点平均区分が1,000から1万Bq/kgの濃度区分にございまして、1地点においてはこの右のグラフになるんですが、地点平均が1万から10万Bq/kgの濃度区分となっております。これらの5地点については、平成28年から30年頃、このグラフの移動平均線をご確認いただくと分かりますが、ちょうどこの平成28年から30年頃に、一時的な濃度の上昇が見られる地点が多いということがありますので、以後の期間で傾向の変化は少しここで変わってきますので、直近5年間の回帰分析に区切って再解析を実施しております。1地点、秋元湖は、直近5年では減少傾向を示してございます。そして3地点の檜原湖、小野川湖、大柿ダムでは横ばい、そして1地点の玉原湖ではばらつきが認められるというふうになってございます。

次がストロンチウムの結果となります。底質のストロンチウムの結果につきまして、河川は令和5年度で2試料の調査を実施しまして、2試料とも1 Bq/kg未満の結果が得られてございます。湖沼ですが、湖沼のほうは、令和5年度が33試料の調査を実施しまして、そして全ての試料において検出が出ております。検出率100%となっております。検出値の濃度の範囲ですが、検出下限値未満から11 Bq/kgの間の結果となっております。沿岸の底質中のストロンチウムについては、平成29年度と平成30年度に全て検出下限値未満となりましたので、令和元年度以降は調査を行ってございません。

次が、水質のストロンチウムとなっております。地下水のSr-89そしてSr-90の検出状況をお示ししています。地下水のほうですが、地下水でのSr-89及び90に関する調査は、平成24年の1月から令和6年2月に、福島県において621検体の調査を実施しております。

そして調査結果の概要は、左の表にお示しするとおりでして、全ての検体で検出下限値を下回っているという状況となっております。公共用水域の水質についてです。公共用水域の水質については、令和4年度に底質の10 Bq/kgを上回った試料に対して実施するということになっておりまして、結果ですが、2地点で合計3試料の実施を行っております。そして、いずれも検出下限値未満ということの結果が得られているところとなります。

ストロンチウムの結果は以上となっております。

【福島座長】 どうもありがとうございました。それでは、福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリングに関して、今説明をいただいたのですが、まず資料6のような形で、調査結果一覧を出していいかどうか。それから、それを整理した資料4のようなまとめ案として公表していいかどうか。ご質問、ご意見をいただきたいと思っております。

このモニタリングは、後で震災対応モニタリングと言い換えられていることもありますが、正式名称はどちら。

【田邊課長補佐】 正式名称はこちらになっています。

【福島座長】 こちらなのですね。震災対応モニタリングという言い方をしてもいいと。

【田邊課長補佐】 そのような形でこちらの報告書にも記載をしている、まとめ資料にも記載をしているというところになってございます。冒頭のほうにそのようなご説明が入っております。

【福島座長】 名称なので、どこかでしっかりと書いておいていただければと思います。

【田邊課長補佐】 承知しました。

【福島座長】 いかがでしょうか。

【田邊課長補佐】 すみません、環境省からよろしいでしょうか。

本日ご欠席の徳永委員より、こちらの資料についてコメントを1件いただいております。具体的には資料のスライド10の部分となっております。増加地点の傾向の解析に関しては、もう少し深掘りをしてといいますか、内容についてももう少ししっかり解析を行いまして、引き続き解析を行って、より明確な内容を追求していったほうがいいというようなコメントをいただいております。

【福島座長】 どうもありがとうございます。私からも10と11で幾つかの、トータルで12地点の解析を進めているのですが、それ以外の地点は基本的に減少傾向にある。要するにこの12地点で、湖の特徴はどんなものかというような整理はされておられるのでしょうか。後のほうの今後のモニタリングに関する議論のときの解析の中で、そういうことをやられ

るのかどうかという質問なのですが。

【田邊課長補佐】 まだ、本当に今年度も結果について、この解析をまだ浅い形で行ったというのみとなっております、これから内容について深く検討する段階なのかなというふうに考えております。何かコメント等をいただければ、新たな解析等も実施可能ですので、何かコメントをいただけると大変助かるところでございます。

【福島座長】 私の直感なのですが、割と水深が浅くない、要はあまりかく乱を受けないというのが一つの条件と、それから外部から土砂があまり入ってこないというので、湖面積と流域面積の比みたいなものを取って、何か解析してみたら、もしかしたら特徴が出るのかなと思っています。

【田邊課長補佐】 ありがとうございます。

【福島座長】 底泥自身あまりかく乱されて、もう一度、一旦たまったものが外に出て行かないというのは必須条件ですし、それから、かなり土砂がどうなのかなという。ゆっくりたまって、そのエクマンバージで採泥をされているわけですけど、その厚さまでまだ達していないようなところは、どんどん降り積もってまだ増えているということなのかなと。これは個人的な想像なのですが。そういうことも含めて、特徴を明らかにしておいていただくと、後の解析のほうに役に立つのかなと思いました。

【田邊課長補佐】 コメントありがとうございます。追加の情報の収集に努めたいと思います。

【福島座長】 ほかいかがでしょうか。

【林委員】 今の話とも関連するところですが、私は11枚目の大柿ダムがちょっと心配だなと見ていまして、平成28年度ぐらいまでは、時折大きい値は検出されるんですけども、基本的に非常に濃度が低かったのが、それ以降、急激に濃度が上がっています。その理由が何かというのを、できるだけ早くしっかり明らかにしたほうがいいかなと思っています。もしかしたら、取っている場所の違いみたいなところも、底泥の性状で評価できる可能性もあるかなと思っています。大柿ダムの下流、浪江町では避難指示も解除されて人が戻ってきていますし、用水として利用されているダム湖でもありますので、住民の皆さんの懸念を払拭するためにも、こういったところの解析をしっかりとする必要はないかなと思っています。

【田邊課長補佐】 コメントありがとうございます。

【石井委員】 関連で1点よろしいですか。

その原因を解析するときに、例えば湖底の立体的な構造というのも一つ重要なポイントかなと思います。それに関しては、もう本当にデータを調べればある程度その湖底の地形というのが分かると思うので、まず1回それを調べてみておけば、どこにたまりやすいのか、そして今回サンプリングしたところがどういうところを取っているのかという情報があれば、解析に役立つかなという気がしました。

【田邊課長補佐】 ありがとうございます。

【福島座長】 あと、もう1点なのですが、底質のほうは増えていても、水質のほうはそういう同じ湖沼でどういうふうに変化しているか。全体としては、検出されるもの自身が圧倒的に下がっているんで、こういう増えている底質の濃度が上がってきていても、水質のほうは下がっているか、あるいは変わらない、検出限界未満ですよというようなデータも併せてあったほうがいいのかかなと思います。

ほとんど検出されないですか。

【林委員】 検出下限値が1 Bq/Lですから、検出のしようがないですね。

【福島座長】 ないですよ、もうほとんど。最初のうちには検出されたようなものもあるのですか。検出されていますよね、水質で。湖沼の中で検出されて。

【田邊課長補佐】 ため池の検出がございます。通常の湖沼での検出はないという認識です。

【福島座長】 ないですよ。ですので、その辺は明確に言っていただいたほうがいいのかかなとも思ったのですが。

【林委員】 1点補足させていただくと、水生生物モニタリングのほうで、例えば猪苗代湖であるとか、秋元湖のほうで検出下限を下げて定量測定している結果を踏まえると、底質の濃度が両地点とも、やや上がっていますけれども、水質の濃度については、ほぼ横ばい。あるいは猪苗代湖は下がりぎみという状況です。ですので、底質濃度の上昇が水質濃度に影響しているということは、言い難い状況です。

【福島座長】 その辺明確に何か示していただいたほうがいいのかかなと思ったりもしました。

【田邊課長補佐】 ありがとうございます。

【福島座長】 ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(なし)

【福島座長】 それでは、ただいまいただいたのは、ご意見といたしますか、コメントだと

いうことを受け取らせていただいて、資料6に関しては、このデータを公表していただくと。それから、まとめに関しては、現状ではこの形で表に出してもらおうということによりよいでしょうか。

(異議なし)

【福島座長】 どうもありがとうございました。それでは了承されたということにしたいと思えます。

それでは、次の議題に進みたいと思えます。続いて、議題の3、福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリング（震災対応モニタリング）の中間とりまとめについて説明をお願いいたします。

【田邊課長補佐】 環境省からご説明させていただきます。資料7のスライドを1枚めくって、次に行っていただき、1をお願いいたします。

先ほど議題2のほうでご説明させていただきました福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリング、震災対応で行うモニタリングということで、こちらにつきまして、中間とりまとめを行わせていただきたいということのご説明になります。こちらの福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリングですが、総合モニタリング計画というものに基づいて実施している、震災の対応するモニタリングでして、人が居住している地域や場所を中心とした放射線量、そして放射性物質の分布状況の中長期的な把握をして及び環境中に放出された放射性物質の拡散、沈着、移動・移行の状況の把握を目的として実施しているモニタリングと、ここが目的となっております。改めて目的確認のため記載させていただいたところになります。

中間とりまとめですが、こちらのモニタリングは震災直後から開始しており約13年間に経過しておりまして、放射性物質の移動・移行の傾向も明らかになってきたというところもありますので、国民向けに情報発信することを目的として、中間とりまとめを行わせていただきたいと思えます。これまで、本検討会で実施してきました公共用水域及び地下水のモニタリングに加えまして、同じく総合モニタリング計画に基づきまして、環境省で実施しております水生生物のモニタリングについても、併せて取りまとめに加えさせていただきますと思っております。

最後、今後のスケジュールになりますが、次回のこちらの検討会、年度内に予定しているものになりますが、こちらの検討会において、中間とりまとめの案についてご確認いただきまして、そしてそれと共に、中間とりまとめを踏まえたモニタリング方法のあり方に

ついてもご議論いただきたいと考えておるところでございます。

環境省のご説明としては、以上になります。

【福島座長】 どうもありがとうございました。それでは、今の方針に関しまして、ご意見あるいはご質問、お願いいたします。

【飯本委員】 よろしいですか。飯本です。

ありがとうございます。全体は理解しました。この中間とりまとめのところに、例えば水生生物のモニタリングの結果も入るとのことですが、幾つの委員会、検討会のメンバーが関わりそうですか。この取りまとめには。

【田邊課長補佐】 こちらの環境省で実施している水生生物のモニタリングでも検討会を行っておりまして、そちらの検討会の先生方にもご確認をお願いする予定になっています。ですので、本検討会と水生生物の検討会、それを合わせて二つの検討会の委員の先生方にご確認をいただきたいなというふうに考えております。

【飯本委員】 関連する全ての委員会で並行して確認をしつつまとめていくという流れですね。

【田邊課長補佐】 はい、そのように思っております。

【飯本委員】 ありがとうございます。

【福島座長】 ほかいかがでしょうか。

よろしければ、こういう方針で進めていただくということで、詳しいことに関しては、後で懇談会のほうであるかと思いますが、構成に関してはご了解いただいたということにしたいと思います。徳永委員も特によろしかったでしょうか。

【田邊課長補佐】 特にコメントはいただいておりません。

【福島座長】 ありがとうございます。それでは、続いて議題の4、その他ということで、何かございますか。

【田邊課長補佐】 環境省から、議題というわけではないのですが、本日の配信につきまして、トラブルがありまして大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ございませんでした。議事録も追って公開させていただきますので、どうぞご容赦ください。

以上となります。すみませんでした。

【福島座長】 ありがとうございます。予定していた議題は以上となりますが、全体を通して何かございましたらお願いいたします。

特段なければ、以上をもちまして、第2回の評価検討会を終了したいと思います。事務

局へ議事を戻したいと思えます。よろしく願いいたします。

【事務局（草柳）】 福島座長、ありがとうございました。

本日はお忙しい中、熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。それでは、これにて本日の検討会のほう、終了いたします。

ありがとうございました。

以 上